

日野・生活者ネットワークニュース

No.163

2021年7月5日発行

発行/日野・生活者ネットワーク 発行責任者/出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平 2-3-12 中央日石ビル 4F
URL <http://hino.seikatsusha.me/>



プラスチックの リサイクル率がアップ！ 基本は市民の分別



プラスチックの資源化施設が本格稼働してから1年が経ちました。生活クラブ運動グループ日野地域協議会では、ごみについてのアンケートを実施し、細かな分別で迷っている人が多いことが分かりました。そこで5月10日にプラスチック類資源化施設(日野市クリーンセンター)でお話を伺ってきました。

プラスチックの処理の流れとしては、破碎してから風力によって軽量(容器包装プラスチック)と、重量(製品プラスチック)に分別します。その後コンベヤに乗せて手選別で不適物を取り除き、汚れた

ものは焼却します。注射針など危険物も混ざっていると、容器包装プラスチックと製品プラスチックはそれぞれ破碎・圧縮され、パレットや固形燃料などにリサイクルされます。

子宮頸がんワクチン、子どもに打っていいの？

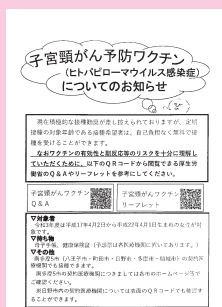
「子宮頸がんワクチンについて医師から勧められるが、子どもに打っていいものかどうか迷っている」との保護者の方からの相談により、4月30日に子宮頸がんワクチン学習会をオンラインで開催。29名の参加でした。

講師は薬剤師で元参議院議員のはたともこさん。

はたさんからは『子宮頸がんワクチンは打つ必要がない!』との結論が最初に示され、①ワクチンの有効率(0.01)より < 重篤な副反応の率(0.05)の方が高い。ワクチンのメリットよりデメリットの方が上回っている。②ワクチンより定期検診、従来の細胞診に加えHPV検査により子宮頸がんはゼロに出来る。

③子宮頸がんの原因となるHPV感染症は性感染症であり性教育が必要と話されました。

他の予防接種に比べて重篤な副反応が高い割合で起きる子宮頸がんワクチン。保護者や子どもたちに十分な情報が届くようにこれからも白井なおこと共に活動していきます。★詳細は、日野・生活者ネットワークのホームページをご覧ください。



日野市からのお知らせのハガキ

まちづくりの主役たち

~公共施設は市民の財産、記憶のつなぎ方~



お隣の八小には、最後の卒園児による閉園記念制作があります。

今年閉園となった第5幼稚園の跡地活用について、卒園児の保護者の方より、声が寄せられました。園舎の解体を見て胸が痛むと同時に、子ども達の意見表明の機会があったのか、疑問に感じられたそうです。手には「日野市子ども条例」をお持ちでした。

跡地活用は具体的にはまだ決まっていないものの、維持管理費もかかるため、速やかに解体し、更地しておく必要があるというのが市の説明です。と同時に「まちの記憶をどう残していくか。公共施設のたため方は、今後確かに課題である。」と受け止めています。

市と市民はパートナーとして、合意形成を図っていくプロセスが大切だと考えます。声をあげる人、受け止める人、共感する人、知恵を出す人、皆がまちづくりの主役です。そのための仕組みづくり、一緒に考えていきませんか。



容器包装はこのように圧縮梱包され業者に送られます。

ました。今後ごみについて語り合う機会をつくっていきたいと思います。

その他同じ施設で不燃ごみと粗大ごみも処理されています。不燃ごみの不適物(バッテリーやスプレーなど)を手選別で取り除いた後、粗大ごみと混ぜて鉄とアルミを選別し、残渣は焼却します。プラスチックの回収が始まってから、資源化率は34%から40%に増えたそうです。正しい分別と物を大切にすることで、ごみを減らしていきたいと思

2050年再生可能エネルギー電力目標を100%に!

日野地域協議会より日野市長に、国に対して脱炭素、脱原発、再生可能エネルギー電力の割合を高める意見書の提出を求める要望書を提出しました。構成団体の生活クラブからは、23万筆の署名も国に提出しています。



市長に直接渡しました。

気候危機はまったなし!国の基本計画にエネルギーミックスをどう位置付けるかが大きな鍵となります。皆さんも一緒に声をあげ、取り組んでいきましょう!